

日本結核病学会東海支部学会

—— 第120回総会演説抄録 ——

平成24年11月10・11日 於 じゅうろくプラザ（岐阜市）

（第102回日本呼吸器学会東海地方学会と合同開催）

会 長 大 野 康（岐阜大学医学部第二内科・呼吸器内科）

—— 一 般 演 題 ——

1. 尿閉で発症した肺扁平上皮癌に伴う傍腫瘍性神経症候群の1例 °森 秀法（羽島市民病呼吸器）山田 治（同神経内）

78歳男性。尿閉を初発症状として来院。下肢筋力低下，感覚障害を認め，MRIにて胸腰髄内および頭部脳室周囲，皮質直下に脱髄性病変と考えられる多発性病変を認めた。右上葉に40 mm大腫瘤影を認め，TBLBにて中分化型扁平上皮癌と診断した。髄液検査で細胞数増加，蛋白上昇を認めたが異型細胞は認めず。肺癌に伴う脳脊髄炎型の傍腫瘍性神経症候群と診断し，ステロイドパルス，全身化学療法を施行し下肢筋力は回復，独歩可能と

なった。

2. 血痰と右中葉入口部の腫瘤を契機に診断された腺様嚢胞癌の1例 °浅野俊明・飯田健太・林 信行・日比野佳孝・山田祥之（JA愛知厚生連江南厚生病呼吸器内）福山隆一（同病理診断）福本絃一・横井香平（名古屋大医附属病呼吸器外）

症例は75歳男性。来院2カ月前から血痰を自覚。胸部CTでは右中葉分岐部にポリープ様の腫瘤が存在。気管支鏡検査では，右中葉入口部に易出血性の腫瘤を認め，生検で腺様嚢胞癌と判明した。